

# 会 議 録

## 1 会議名

平成29年度第9回牧区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### ○協議事項

①牧区の課題検討について（公開）

②平成30年度地域活動支援事業採択方針等について（公開）

### ○報告事項

## 3 開催日時

平成30年1月23日（火）午後6時30分から午後9時00分まで

## 4 開催場所

牧区総合事務所3階 301会議室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委員：丸山 進（会長）、飯田秀治、折笠弘志、金井貞子、佐藤祐子、清水薫、中川よしえ、前山美智弘（中途から出席）、渡辺喜一

・事務局：牧区総合事務所 高橋所長、橋詰次長、宮腰G長、綿貫班長、近藤主任

## 8 発言の内容（要旨）

### 【橋詰次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【丸山会長】

- ・挨拶

今年、ここまでは穏やかな天候で今のところは喜んでいる。本日から荒天模様である。

年明け早々、区内で痛ましい交通死亡事故があった。交通事故に気を付けるよう、機会を捉えてPRをお願いしたい。小雪なので空き家の倒壊等の心配はないが、自然災害には十分備えたい。

【高橋所長】

・挨拶

今年もよろしく願います。今日から強い寒波。積雪は棚広新田で159cm、昨年より70cm少ない。今後、急激に増えることが予想される。除雪中の事故や交通事故に注意を呼びかけたい。昨年は自然災害に悩まされた。10月21日の台風21号では大きな被害があった。春の耕作に間に合うよう復旧に努力していく。災害のない年であることを願っている。委員任期が半ばを迎える。把握した課題解決に向け、自主審議等が活発になるようお願いしたい。

【丸山会長】

・会議録の確認：渡辺喜一委員に依頼

【丸山会長】

協議事項①について説明を求める。

【綿貫班長】

現在検討中の課題である牧区の空き家問題を、自主審議事項として取り組むこととしてよいか審議願いたい。

【丸山会長】

取り組むことは一致している。件名は「牧区の空き家対策」としてよいか。

【一同】

よい。

【丸山会長】

先回、空き家課題を三つに項目分けした。特定空き家の処分策、空き家の利活用、空き家を発生させない予防策、ということだが、この中で、特定空き家の処分について、町内会への働きかけや、行政にお願いする部分などを含め、まずは検討することとした。

このことについて、皆さんの意見を聞きたい。

調査のまとめについて、町内会長にフィードバックするに際し、事務局では今一度精査を願いたいと言っている。

**【綿貫班長】**

精査方法について説明。

**【丸山会長】**

空き家の処分について、業者情報などを提供していく視点などが考えられるが、その他の視点はどうか。意見を出していただきたい。

— 前山委員、中途出席 —

**【丸山会長】**

— ここまでの経過を、前回欠席した前山委員に向けて説明。 —

**【丸山会長】**

取り壊し業者の情報を町内会に提供していく。それ以外の課題をあげてほしい。取り壊したくても資金が足りない、そういう家庭に対する対応策はあるか？

**【渡辺委員】**

空き家の定義に不明確なところがある。調査にあいまいさもある。壊したいが資金がなく放置しているものや、住む意思はないが時々来ているケースなど整理が難しい。今、私たちはこれらの空き家の中で、どの部分をどうしようとしているのか、私は理解できていない。

**【前山委員】**

議論の方向が、自分の考えとは、ずれてきている。目標が定まっていない。将来人口が1,000人を切るような状況で、空き家予備軍があちこちにあり、将来的にどのようなか絵を描きたかった。数年後に心配な状況が見えているのに、何も手を打てないのはどうか？という考えからスタートしているものだ。今の議論は、現実問題に特化している。

**【中川委員】**

人口減少は自然の流れであり、全国的なもの。止めようがない。せめて自分のところだけは一緒に生きていきたい。

**【清水委員】**

農地があったからここに住んできた。我々は精一杯生きているが、次の世代までは考えられない。そうは言っても、高尾などでは外部からの移住に取り組んでいる。いろいろな意見があり、価値観が違うように思う。そんな中で空き家が生まれてくる要素があ

る。それを認めながら利活用を考えたい。対策も必要になる。

**【佐藤委員】**

道路の傍に廃屋があり、お化け屋敷のようになっているのは、景観上大いに問題がある。持ち主や町内会に働きかけ、活用できる補助制度などあれば、活用しながらなんとか撤去していただくよう努力が必要だ。

元来、牧区では、空き家に他所の人が入ることに対して用心深い。町内会長の温度差も大きい。まずは今回の調査結果を町内会長に返して、問題を認識してもらおう。空き家予備軍の問題では、自分自身を振り返って子どもが住み続けるかは確信がもてない。

**【清水委員】**

調査表⑧は内数でよいか？ とすると①から⑧を引くと、連絡先がわからない空き家の数が出る。ここが一番の問題ではないか。

**【金井委員】**

空き家の考え方の整理ができていない。数値の整理が難しい。自分たちも高齢であり、10年先のことは考えられない。

**【折笠委員】**

5～10年で皆、廃屋になる。売りたい人もいる。町内会長へも情報提供し、どうするのか考えたい。

**【飯田委員】**

委員が全区を調査したことは、意義あることである。結果を町内会長に示すことで、一步前進できる。業者情報を町内会長に提供していくことも効果が期待できる。空き家は全国的な問題で、町場でも問題になっている。まずは町内会長に提供していくことだ。最後は壊さなければならないわけだが、手をかければ廃棄物となり、不法投棄になりかねない。そのままなら罪にならない。そんな矛盾もあるとすれば、特区のような制度で特別に認めてもらうなどの手立てはできないか。

**【丸山会長】**

数値は大まかな指標であり、大づかみでよいと思う。将来どのようになるかわかってくる。そのうえで、地域で対応するのか、行政が対応するのか、が問われる。我々がやるとすれば、情報提供だ。それに加えて、今後5年10年の間に、空き家になると思われる家をどのように管理していくかを考えることにも取り組める。

連絡先がわかるものが多い。このことは、年に1回でも2回でも訪れている証左だ。生まれた土地に愛着があるということだ。であれば、転出の際にすべて取り壊せというのは無理がある。別荘のように使いたいとの人もいるだろう。だとしたら、どうやって守っていくかを考えたい。

飯田委員の意見にあったように、壊す際には法律があり、全国一律の考え方で扱われている。しかし中山間地では屋敷も広く、壊して積み置きしておく分にはどこにも迷惑はかからない。だとしたら、中山間地では特例として認めてほしいと訴えていくことも考えられる。

**【高橋所長】**

空き家の将来推計ができればすばらしい。人口の将来推計ができるので、空き家に関しても可能だと思う。将来推計を出したうえで、その対策をどうするか考えていくことは理に適っている。

ここでもう一度、基礎から学習する時間を持ってはどうか。空き家の定義や法律、市条例などを学習するという事。市では空き家対策計画やアクションプランも持っている。まずは市が、空き家に対してどうしていこうとしているのかを学習するという事。対策については担当課、推計については創造行政研究所などもある。

**【丸山会長】**

市が、どのような対策をやっているかを、我々がわかっていないことは事実である。前回には清水委員からもそのような意見が出されていた。皆さんどうか。

**【高橋所長】**

清里区との合同研修会の際にも話を聞いたが、短時間で、さわりだけだった。

**【丸山会長】**

我々の質問にも答えてもらえ、やり取りのできる勉強会にできればよいと思う。

**【中川委員】**

空き家を利用して、維持管理費をかけずに、もやしを栽培するなどの活用策はないか。

**【丸山会長】**

勉強会の提案についてどうか。

**【飯田委員】**

勉強会はいいと思う。中山間地の現状を踏まえた研修にしてほしい。

【佐藤委員】

中川さんの意見に乗っかるが、農機具の格納庫に利用するなどの工夫をしたい。利活用は、よその人を住ませるだけではない。

【丸山会長】

私自身、3年前から空き家を作業場、格納庫として利用している。しかしこれらはごく少ない例である。他の多くの空き家をどうするか、またこれから新たに発生するであろう空き家をどうするか。そこを考えると、市の対策を知らずに考えていくことはよくない。地域内でも実情が違う。各委員がそれらを持ち寄って、勉強会をしていくことはどうか。

【中川委員】

個人の財産に口を出す話なので、そもそもが難しい話だ。名案が出てくればいいが。

【丸山会長】

難しいからこそ、全国的な問題になっている。都会でも、これから空き家問題が出てくると言われている。

【金井委員】

空き家にしている人も、畑作業などで来ているが、雪が降れば全く来ない。壊すルールがある集落はいいが、うちの集落は放置されている。勉強会で、つぶれた家の処分策を聞きたい。

【飯田委員】

空き家に対する町内会費はどうなっているか。聞かせてほしい。岩神町内会は空き家1件1万円だ。

【一同】

各町内、ルールは様々だ。

【丸山会長】

それらを含めて、牧全区の情報を提供していくことも対策の一つだ。

【渡辺委員】

居住可能な空き家43件に対しての、売りたい、貸したいという意思是、この調査表では確認できない。意思があるものとして7件が上がっている。これをどうやって活用し

ていくかを、この場で議論していきたい。そこそ我々が議論できる唯一の部分である。貸す意思も売る意思もないものを、我々がどうこうできる話ではない。

**【丸山会長】**

貸す意思のあるものの方策は、いくつか考えられる。インターネットなどで紹介していくのも、その一つであろう。

勉強会はやるか。

**【一同】**

やることでよい。

**【前山委員】**

どういう勉強会をやろうとしているのか。市の施策を勉強するなら、資料をもらうだけでよい。落としどころは、市がどういう補助ができるか、ということ。そこが結論だ。また、利活用のプランを提案していくことも一つだ。個人の資産に関与していくことはできない。勉強会で市から何を聞くのか。時間ばかり使って無駄である。やるならもっとスピーディーにやらなければならない。牧だけ例外的に補助金や特区になどということは無理である。

空き家は個人の問題なので、我々の意見をまとめて、町内会長に届ける程度のことしかできない。それ以上のことは一步も進まない。今の話ではただの座談会をやっているだけ。自分の思っていることをただしゃべっているだけ。具体的なことは何一つない。牧区の課題を話すときに、空き家だけに特化してはダメである。地域の問題全体を見ていく必要がある。空き家は個人の問題であり、立ち入れない。我々が関与できる問題ではない。

**【丸山会長】**

今ほどの話し、皆さんはどう思うか。

**【渡辺委員】**

まだ使える家を、利用活用する方策はないか、を検討する。もう一つは廃屋をどうするか。倒壊の危険がある、衛生上有害である、という空き家をどうするか。我々がどうかするんでなくても、何かやれることはないか、そこを検討することにしたと理解している。

**【飯田委員】**

地域協議会で取り組もうと決めたこと。何かの対策があれば地域につなげていくべきだし、それについての我々の知識は浅いわけで、勉強は必要と考える。ぜひやってもらいたい。

**【佐藤委員】**

自分の目、耳で、見て聞くことは意義がある。創造行政研究所の将来推計、担当課である建築住宅課、および税務関係の話など、いろいろなことで共通認識を持つことに意義がある。学習会はぜひやってほしい。ただし、冬場であり、開催時間は午後4時など可能であれば工夫してほしい。

**【中川委員】**

私は最初からこのテーマは疑問視している。個人財産に対するものなので、できることはない。処分に税金で補助金を出すことは反対である。町内会から検討してほしいという声があがってきたのであればよいが、地域協議会が投げかける話ではない。

**【高橋所長】**

この問題の出発点は、地区懇談会で多くの指摘をいただいたことである。それを皆さんが検討され、空き家問題が牧区の課題ではないか、という合意のもと、話を進めてきている。

**【清水委員】**

この委員会では「地域へ投げかけることならできる」という出発点があったのではないか。このまま何もせずがいいのか、処分しようという世論を形成していくことも一つの役割ではないかと思う。

**【中川委員】**

区内の雰囲気づくりということか。

**【前山委員】**

結局、地域協議会の役割に帰結する。予算もない、権限もない、ただ話しているだけの会になっている。チラシの1枚でも作って配ればそれでいいのではないか。

**【丸山会長】**

皆さんでやると決めてここまできている。やめればいいというのであれば、このまま終わればいい。しかしそれでいいのか。課題・問題があり、それを共通認識として持ち、



何かできることはないか、勉強会をして地域に情報として流していく。そういうことではないか。それ自体が無駄だということであれば必要ないが。

**【金井委員】**

自主的審議事項というのは、定例会の中でやる考えか。

**【丸山会長】**

それはいろいろな考えがある。今後どうするか。元に戻って、自主的審議事項としてはまだ取り上げず、課題検討としておくか。いずれにしても、ここまで話を進めてきているので、この部分は町内会への情報提供、この部分は行政への提言、という形まで進めたい。いかがか。

**【一同】**

それでよい。

**【高橋所長】**

冒頭、自主的審議事項とする旨、結論を得たが、このまま自主的審議事項とするのかの確認を、今一度願いたい。

**【丸山会長】**

自主的審議事項として報告することは見送り、引き続き検討を続けることにするか。

**【前山委員】**

何を上げるのか。牧の実情を上げるのか。そんなものは牧だけでなくみんな一緒だ。他区の自主的審議事項を見ると、区固有のテーマを取り上げて市に意見書を上げている。具体的なことを言わなければ意味がない。空き家でいくなら、もっとデータを詰めなければならない。

**【丸山会長】**

自主的審議とは、市に対するものだけではない。我々が検討し様々な解決策を見出すものである。

**【高橋所長】**

自主的審議の結論としては、市への意見書だけではない。地域への情報提供も一つの策である。

**【中川委員】**

少し話を変えて、道路際にある樹木が交通の妨げになっているものが時々ある。これ

も個人の財産なので切れない、地主が分からず切れないケースがある。これを切れないか。

【丸山会長】

現在の実情はどうか。

【橋詰次長】

当然、交通に支障があれば切るという作業をするが、あくまで持ち主を見つけ、承諾をいただいたうえで切っている。それも本来、持ち主が切るべきであるが、様々な要素を考え合わせ、行政が切らなければ切れないであろうというケースのみ、行政が対応している。

【丸山会長】

自主的審議事項としては上げないが、検討課題として継続するということでよいか。

【一同】

よい。

【丸山会長】

それでは次に、地域活動支援事業の採択方針について協議する。事務局、説明を願いたい。

【綿貫班長】

資料により説明。

【丸山会長】

昨年、多くの時間を割いて議論したうえで決めた方針である。改正意見があれば出してほしい。この事業は地域住民にも定着し、理解されている。

【前山委員】

もう少し考える時間がほしい。昨年、上限額を100万円に引き上げたが、ねらいどおりに活用できたか疑問に思っている。制度または仕組みを分かっている一部の人間が、しっかり申請しているが、やっていることは50万円と変わらない。本当に100万円でもよかったのか、いままでどおりの50万円でもよかったのではないかと検討してほしい。100万円にしたねらいは、もう少し規模の大きな事業を期待したが、結果は今までと変わらなかった。分かっている人が100万円と書いて出しただけ。私の考えでは前々年と同額の50万円でよいと考える。

【丸山会長】

交付額を決めるのは、ヒアリングをしたうえで皆さんの採点で決めている。事業実施後、使われ方がどうかという検討会もすべきと思うが、取り組めていない。

【前山委員】

具体的に言うと、振興会の事業、コピー機を買うのであれば50万円で買えた。基金もあるわけだし。棚広の事業も大学生の旅費、半分にしてくれと言えば50万円でできた。

【丸山会長】

そういうことであれば、採択時に減額をすべき。

【前山委員】

はたして100万円が有効だったかということ。ここのリーダーはみんな役場上がりの者ばかり。分かっているものが取ったもの勝ちになっている。

【橋詰次長】

今、採択方針の検討をお願いしているが、今年度事業の成果が出そろわない中で議論いただいている。このこと自体に無理な面があるが、今年度のスケジュールでいうと、自治・地域振興課に、各区の採択方針を報告する期限が2月23日になっている。したがって2月の定例会を23日以前に組んでいただければ、もう一度審議いただけるチャンスはあろうかと思う。一方、今年度事業の実績報告が、全部ではないが上がってきている。それを事前に皆様のお手元にお届けし、内容を検討いただいたうえで2月の定例会で今一度御審議いただく、という手順でいかがか。

【丸山会長】

事務局提案はいかがか。

【一同】

賛成する。

【高橋所長】

昨年100万円の上限として審査いただいた。実績も大事だが、採択をすることが肝心なことである。ここでしっかり審査をして、牧区の地域振興になる事業かどうかを判断いただくということ。審査の方法も考える必要があるのではないか。その段階できっちりとした審査ができれば、50万円、100万円という金額の話ではない。

【丸山会長】

検討課題としたい。

【前山委員】

結局は、村度の話。所長の話は大事な話だが、このメンバーで、このやり方でできる話ではない。だとしたら、頭で金額を決めたほうがよいのではないか、というのが私の考えだ。

【丸山会長】

ヒアリングもしっかりやり、公平公正で、地域の皆さんから異論の出ないようなやり方にしたい。それでは、次回は2月20日とする。その他の案件があるか。

【飯田委員】

新年早々、痛ましい交通死亡事故があったが、その際の交通止めを知らせる無線放送で、う回路の案内がなかった。もう少し丁寧な放送を期待する。

【高橋所長】

2日間にわたる交通止めであったが、放送は2日目であったことも合わせてお詫びする。警察との連携も含めて検証する。

【丸山会長】

事務局で連絡事項はあるか。

【宮腰G長】

健康福祉、介護、高齢者福祉計画についての市民説明会開催について

【綿貫班長】

市民手帳の頒布について

【丸山会長】

その他、委員からの意見等を求めるが無く、会議の閉会を宣言する。

9 問合せ先

牧区総合事務所総務・地域振興グループ TEL : 025-533-5141 (内線 147)

E-mail : [maki-ku@city.joetsu.lg.jp](mailto:maki-ku@city.joetsu.lg.jp)

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。